

2017年10月2日

### 朝礼の話 (2017年10月)

皆さんお早うございます。先週から、朝晩はめっきり涼しくなり、日中の暑さも和らぎ、心地よい秋風が少しずつ感じられるようになってきました。これから日一日と本格的な秋の気候に近づいていきます。天高く馬肥える季節となってきました。収穫の秋、味覚の秋、スポーツの秋です。美味しいものを食べ、体を動かし、大いに英気を養ってください。また秋の夜長、読書にもいい季節です。大いに読書に親しんでください。

先月25日、安倍晋三首相は、28日召集の臨時国会冒頭で衆院を解散すると表明しました。2019年10月に予定する消費増税(8%→10%)の使い道の見直しにつき国民の信を問うと訴えました。同日、小池百合子東京都知事は、国政政党の新党「希望の党」を立ち上げ、代表に就任すると表明しました。「改革保守」を掲げて、来る衆院選で安倍政権の批判票の受け皿となることを目指しています。28日午後の本会議で衆院は解散され、今月10日(火)公示、22日(日)投開票に向けて事実上の選挙戦に突入しました。民進党の前原誠司代表は、安倍政権を終わらせ、政権交代を実現するため、衆院選に民進党から候補者を擁立せず、希望の党への合流を目指す方針を表明しました。全国展開を図る上で必要な組織と資金がほしい希望の党と小池氏の人気を自身の選挙に取り込みたい民進党が政権交代を旗印に合流したというのが実態といわれています。安倍首相と新党「希望の党」を代表する小池都知事とが与野党で争う選挙戦となって来ました。小池氏がリベラル系の民進党前議員を排除する姿勢を示していることや希望の党と維新の会が東京・大阪の小選挙区で選挙協力することを表明したため、リベラル系の前議員には希望の党に参加せず、無所属もしくは新党を結成して選挙戦にのぞむ動きが出てきました。10日の公示直前まで、小池氏の出馬を含めて野党の再編の動きは流動的で予断を許しません。1993年、宮沢喜一内閣の不信任決議案の可決、解散総選挙で、自民党は38年間続いた政権の座から野党に転落し、細川護熙氏を首相とする非自民8党会派による連立政権が誕生しました。2009年、麻生太郎内閣が衆院議員の任期満了近くまで追い込まれる形で臨んだ解散総選挙で、自民党は大敗し、民主、社民、国民新党の連立の鳩山政権が誕生し、自民党からの政権交代を果たしました。

今回の衆院選で三度目の政権交代が実現するのか大変に注目されますが、余りにも唐突な野党の再編の動きは、政権交代のみが目的化し何を指し、どんな国をつくらうとしているのかの議論が全く見えていません。少子高齢化が進む現実には避けようがなく、この現実には真正面から向き合い、10年後、20年後のあるべき日本の姿を真摯に議論するような政策論争を是非やってほしいものです。我々有権者も、劇場型の選挙戦に目を奪われず、各党の政策を冷静に評価して、自らが最良と信じる小選挙区候補者と比例代表の政党を選ぶようにしたいものです。

以上